

指定管理者制度導入施設評価票
評価対象年度【令和7年度】

施設名	秋田港セリオンリスタ及びイベント広場等	所在地	秋田市土崎港西1丁目9-2
指定管理者	株式会社秋田東北ダイケン	県所管課	秋田県建設部港湾空港課

1 施設の概要																				
設置目的	秋田港の利用促進を図り、ゆとりある県民生活の実現に寄与するため。																			
県の施策上の施設の位置付け	なし																			
設置年	1995年	経過年数	31年	目標使用年数	38年	残年数	7年	施設面積	2,304m ²											
施設の設置状況	ガラス張り緑地、イベント広場、駐車場																			
県内類似施設	ブルーメッセあきた「観賞温室」(潟上市)、大館樹海ドームパーク「パークセンター」(大館市)					東北各県類似施設	小名浜港アクアマリンパーク「いわきら・ら・ミュウ」(福島県いわき市)、喜多方市屋内子ども遊び場 めぐぶらざ(福島県喜多方市)													
施設の基本的な方針(個別施設計画)	方向性	方向性に向けた対応																		
	存続	※個別施設計画外 利用者のため、機能保全に必要な維持管理、修繕を行い施設を維持する。																		
料金制	完全利用料金制	主な料金設定	イベント広場156,520円、セリオンリスタ(全面500m ²)21,500円、ステージ前のみ(200m ²)8,600円、うどん・そば自動販売機1杯350円																	
指定期間	令和7年4月1日 ~ 令和12年3月31日 (5年間)					営業期間・時間	通年9:00~18:00(11月~3月 17:00閉館)													
指定管理業務の内容	・使用の許可、取り消し等の義務 ・維持管理、運営に関する義務 ・利用促進に関する義務 ※秋田市指定管理施設(セリオン及び秋田港振興センター)と一体的な管理					自主事業の内容	平成28年度から運用を開始した「うどんそば自販機」が変わらずの人気であり、賑わい創出の目玉となっている。その他「フリーマーケット」や「コスプレイベント」を実施し、「秋田県道の駅物産展」「中古車販売」等の誘致も積極的に行った。													
サウンディング実施対象	年間利用者数(人)	R3	R4	R5	R6	R7	年間利用収入(千円)	R3	R4	R5	R6	R7								
		138,364	181,203	348,255	360,609	381,706		1,879	2,225	2,560	2,439	2,547								
収支決算(千円)	項目	R3	R4	R5	R6	R7	増減要因の分析													
		収入	1,879	2,225	2,560	2,439	2,547	年間利用者数	クルーズ船の寄港回数増もあり、隣接するセリオンの来館者数の増加に伴う流動が大きい。セリオンリスタでは恒例イベントの「あおぞら市(フリーマーケット)」の開催の他、R7年度は新規イベント「なまはげ和太鼓ライブ・福まき」等の自主事業イベントも積極的に行った。また、セリオンリスタ内においては新規で貸館利用としてイベント利用する方があったことも要因のひとつである。											
	指定管理料	0	0	0	0	0														
	その他収入	8,763	11,163	10,308	12,047	11,629														
	合計	10,642	13,388	12,868	14,486	14,176														
	支出	901	901	901	901	901	収支決算								収入は昨対比97.8%であったが、施設利用料はセリオンリスタの新規利用者もあり前年対比104.4%と増加となった。その他収入は前年対比96.5%となっており、要因は「うどんそば自販機」の売上減である。これは1日の販売数が減少傾向にあり、経年劣化の影響が大きい。支出は昨対比97.2%と減少した。人件費、光熱水費、修繕費はほぼ横ばいであるが、その他支出(うどんそば自販機材料費等)が昨対比96.3%であった。収支については収入減ではあったが、支出も減少した結果、昨対より若干の改善結果となっている。					
	人件費	901	901	901	901	901														
	光熱水費	1,044	1,287	1,192	1,286	1,295														
	修繕費	2	299	32	0	3														
	委託料	2,209	2,337	2,335	2,514	2,468														
その他支出	7,324	8,739	8,589	10,091	9,722															
合計	11,480	13,563	13,049	14,792	14,389															
収支差	▲838	▲175	▲181	▲306	▲213															

指定管理者制度導入施設評価票
評価対象年度【令和7年度】

施設名	秋田港セリオンリスタ及びイベント広場等	所在地	秋田市土崎港西1丁目9-2
指定管理者	株式会社秋田東北ダイケン	県所管課	秋田県建設部港湾空港課

2 <観点Ⅰ> 施設の設置目的（施設の目指す姿）の達成に関する取組					
運営方針・施設の利用目標	(1)秋田港の利用促進を図るため、本施設の利用促進に取り組む。 (2)県民のゆとりある生活に寄与するため、県民を対象としたイベントを開催する。				
目標・実績	目標の内容				
	年度	R 5	R 6	R 7	増減要因の分析
	目標	270,000	350,000	380,000	クルーズ船の寄港回数増もあり、隣接するセリオンの来館者数の増加に伴う増加が大きい。セリオンリスタでは恒例イベントの「あおぞら市（フリーマーケット）」の開催の他、R7年度は新規イベント「なまはげ和太鼓ライブ・福まき」等の自主事業イベントも積極的に行った。また、セリオンリスタ内においては新規で貸館利用としてイベント利用する方があったことも要因のひとつである。
	実績	348,255	360,609	381,706	
	達成率	129.0%	103.0%	100.4%	
具体的な取組とその効果	セリオンリスタ内での自主事業開催や、新規イベント予約の獲得、それに伴う来館が増え、集客につながった。また、クルーズ船の秋田港への寄港回数が増加したことで、船客やクルーズ船の観客の増加が利用者の増加につながった。				
次年度の目標	目標の内容	利用者数 360,000人			
	設定の根拠	年々来館者数が増加傾向であるが、クルーズ船の寄港数がR7年度の32回からR8年度は20回と12回減少であること、昨年7回寄港のあった乗船客4,000人規模の大型船「MSCベリッシマ」がR8年度は寄港しないため、その影響もあり来館者数の減少が予測される。R6年度の寄港数は26回であるが、クルーズ以外の集客も増加傾向であることから、それを加味してR6年度の実績程度と設定した。			
<観点Ⅰ> 評価	評価者	評価	評価コメント（評価基準によらない場合はその理由）		
	指定管理者	A	自主事業の実施やイベント誘致、クルーズ船寄港の増加に伴い、積極的な情報発信を行うことで、利用者数が大幅に増加し、昨年度の105.8%の来館者となった。		
	県所管課	A	目標を上回る利用者数を達成した。クルーズ船寄港情報を発信するなど、港一体的な情報発信を行うことで、みなとの賑わいに貢献している。今後も積極的な情報発信、イベントの実施等による利用者数の増加を期待するが、クルーズ船の大幅な寄港数減少が既に発表されているなかで、自主イベント等を増設するなど収入の増に工夫・努力してもらいたい。		
3 <観点Ⅱ> 施設の有効性（利用者の満足度）の向上に関する取組					
利用者満足度の実績	年度	R 5	R 6	R 7	増減要因の分析
	実績（%）	83.2	83.5	83.8	セリオンリスタ内にある滑り台、砂場が天候に左右されず子供を遊ばせることができ、年々親子利用が増えていることと、自主事業イベントの開催による。
	具体的な取組とその効果	「秋田港海の祭典」や定期的なイベント（あおぞら市（フリーマーケット）、その他予約イベント等）の開催により利用者増となった。			
<観点Ⅱ> 評価	評価者	評価	評価コメント（評価基準によらない場合はその理由）		
	指定管理者	A	「うどんそば自販機」は継続して人気があり、砂場やすべり台などの遊具があることにより冬季や雨天時にも気軽に遊べると、お客様より好評の声が多い。		
	県所管課	A	安定した施設管理により、継続して高い満足度を確保している。		

指定管理者制度導入施設評価票
評価対象年度【令和7年度】

施設名	秋田港セリオンリスタ及びイベント広場等	所在地	秋田市土崎港西1丁目9-2
指定管理者	株式会社秋田東北ダイケン	県所管課	秋田県建設部港湾空港課

4 <観点Ⅲ> 県民サービス及び業務効率性の向上と公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組					
モニタリング項目	モニタリング項目		主な視点	指定管理者	県所管課
	モニタリング項目	管理運営体制			
② 職員の勤務実績			事業計画書等に照らして適切な勤務実績となっているか 等	A	A
③ 職員の処遇等			職員の処遇が労働法規に反していないか 等	A	A
④ 施設等の適切な管理			事業計画書等に照らして日常的な保守管理や定期点検、清掃、警備、修繕等がなされているか 等	A	A
⑤ 備品の適切な管理			備品の紛失・損傷はないか 等	A	A
⑥ 個人情報の保護			個人情報取扱特記事項が遵守されているか 等	A	A
⑦ 安全・安心確保			事故防止マニュアルや緊急時連絡体制を整備しているか 等	A	A
⑧ 経費の低減・収入の増加			経費の低減や収入の増加の取組が進められ、前年度と比較し、施設の収支状況が改善されたか 等	A	A
⑨ 健全な経営			指定管理者選定時の財務指標と比較し、特段の経営の悪化がみられないか 等	A	A
サービス向上		① 開館日・開館時間等	事業計画書等に照らして適切な開館状況となっているか 等	A	A
		② 業務の実施	事業計画書等に照らして適切な業務が実施されているか 等	A	A
		③ 施設の使用許可	事業計画書等に照らして適切に使用許可がされているか、優先的又は不利益な取り扱いはないか 等	A	A
		④ 職員の接客	丁寧な対応や挨拶がなされているか、名札着用や適正な服装をしているか 等	A	A
		⑤ 広報・利用情報の発信	ウェブサイトやSNS、パンフレットなど、多様な媒体により積極的な広報を実施しているか 等	A	A
	⑥ 利用者の相談・意見・苦情	ウェブサイトや電話等による相談窓口を整備し、利用者からの相談・意見・苦情への対応策を講じているか 等	A	A	
	⑦ 課題への対応	利用状況のほか、満足度調査等から課題を抽出し、対応策を講じているか 等	A	A	
<観点Ⅲ> 評価	評価者	評価	評価コメント（評価基準によらない場合はその理由）		
	指定管理者	A	実績報告に記載のとおり、施設の管理運営等、指定管理業務は適正に行っている。		
	県所管課	A	若干ではあるが収支が改善されており、より増加率の高い利用者数を収入に取り込めるよう取り組むことで更なる収益増に期待したい。一方で、クルーズ船の大幅な寄港数減少が既に発表されているなかで、自主イベント等を増設するなど収入の増に工夫・努力してもらいたい。		

指定管理者制度導入施設評価票
評価対象年度【令和7年度】

施設名	秋田港セリオンリスタ及びイベント広場等	所在地	秋田市土崎港西1丁目9-2
指定管理者	株式会社秋田東北ダイケン	県所管課	秋田県建設部港湾空港課

5 県の施策達成に向けた県所管課の施設運営に対する考え方		
県の施策の達成状況	セリオンリスタは天候に左右されない施設であることから、保育園等の遠足における雨天時の立寄り場所となるなど、子どもの遊び場としての需要が高く、県民の憩いの場として活用されている。また、イベント広場は各種イベントの開催場所として活用されており、秋田港の利用者増加に寄与している。	
施設運営の課題	施設の老朽化	
今後の方向性	コロナ明け着実に利用者が回復してきており、利用者満足度も継続して高い水準を維持しているなど、集客力のある施設であるが、クルーズの寄港数に影響を受けやすいことから、今後は、より県民からの需要も取り込めるよう、自主事業の増設などに工夫・努力してもらいたい。合わせて、今後も県民が安心して利用できるよう、施設の老朽化に伴う修繕を計画的に行っていく。	
6 外部有識者委員会による評価（提言）		
評価(提言) 令和7年度	施設の管理運営状況	施設の利用者数は目標達成している一方で、コロナ禍以前の水準までは回復していないほか、収支状況についても赤字が継続していることから、クルーズ船の利用客はもとより、各種イベントの誘致など、利用者や収益の増に繋がる取組を一層推進していただきたい。
	県の施策達成に向けた施設運営	○施設の老朽化の状況や収支の状況を踏まえると、施設のあり方を検討する必要があると判断される。 ○同施設の今後のあり方については、港湾区域全体のデザインにも影響することから、民間企業から幅広く意見聴取を行うなど、賑わい創出の観点を踏まえた検討を進めてもらいたい。
評価(提言)を踏まえた対応方針 令和7年度	指定管理者	○利用者数は一定の水準を維持しているものの、収支面では厳しい状況が続いていることを踏まえ、イベント誘致や利用促進、自主事業の更なるPR等による収益向上に取り組むとともに、運営の効率化を進める。 ○併せて、施設の老朽化や収支状況を踏まえ、今後の施設のあり方に関する検討に積極的に協力していく。
	県所管課	○法人のPR等による収益向上に向けた各種取組の効果を上げるため、美の国あきたネットの活用や来庁者等への情報提供に取り組む。 ○施設のあり方については、更なる賑わい創出の観点を踏まえ民間企業等から意見徴収を行い検討したい。
対応方針の進捗状況 令和8年度	指定管理者	上四半期を経過したばかりだが、クルーズ船の寄港数が減少していることは集客数に影響が大きく、施設利用の誘客や、その他、自主事業の増設など集客に努めていく。施設利用に関しては新規利用でのお問い合わせもあり、主に下半期では利用が増える見込みである。
	県所管課	○クルーズの寄港数減少は昨年度末から把握しており、貸館事業や自主事業イベントの増設などサウンディングを続けているが、今後も指定管理者と一体となって企画立案を練っていく。 ○施設のあり方については、更なる賑わい創出の観点を踏まえ民間企業等から意見徴収を実施しており、先進事例の研究も行う方向で検討を進めている。